

先日、私の通う学校の式典が開催された時のことだ。私は生徒や教員、来賓らが一堂に会する場で人の多さに慣れず、体調を崩して会場の外に出た。



家族の迎えを待つ間、ベンチに座ってぼんやりと外を眺めていると、隣のベンチに腰かけていたご婦人が声をかけてくれた。華やかなワンピースを召され、鮮やかな口紅を引いていたご婦人。人に酔って体調を

崩してしまった旨を伝えると、「つらいと感じることはないから、あまり気にしないでください」と優しくいられた。心丸く持ちなさい。いっばい泣いて、その後はいっばい笑いなさい」

その言ったご婦人の笑顔が、まさに彼女自身の「心のわいらしいお嬢さんだったから見た気がして、とても心揺さぶられた。私もあんなふうになりたいたいと思

## 「心を丸く」持つ社会に

赤岩 遥

何か心の中でずっと我慢していたものがふと弾けて、私は思わず肩を震わせて泣いてしまった。ご婦人は言う。「人はいつも、心は丸くなければならぬ。そうすれば、いつも笑顔で人と談笑した後に、わたしの

丸さを物語っていた。ご婦人は、それ以上何を言うこともなく、「それじゃあ、私はこれで」としよやかに去っていった。それから私はふらつく足取りで目まぐるしく悪意や悲しみ

めながら帰路に就いた。私は名前も知らないご婦人の美しさを、その余裕ある上品な振る舞いや心意気かと思いついた。私にとって、昨今の社会はどうか冷たさを感じるものだった。交流サイト(SNS)による誹謗中傷や、ご婦人のように、皆が自らの持つ優しさを平等に分け合えるような社会であってほしいと切に願う。(宮古市 高校生 19歳)